

事業区分	文化芸術事業	育成・創造事業					
事業名	とつとりの芸術宅配便						
目的・内容	<p>県内の小中学校、特別支援学校等に県内のアーティストを講師として派遣し、鑑賞型、体験型の公演やワークショップ等を実施し、子どもや青少年の文化芸術体験の充実を図る。また、創造的な未来と次世代の育成のため、教育と交流の視点から基盤整備を図る。本事業を通じて、将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育成し、文化人口を拡大する。</p> <p>【使命】「文化芸術活動の発信と交流」「文化人口の拡大とレベルアップ」「多彩な人材育成とキャリア開発」「子どもの文化芸術活動の推進」を使命として、子どもたちに文化芸術活動を鑑賞・体験する機会を提供する。</p> <p>【事業計画の柱】「子どもや青少年のための文化芸術活動の充実」「文化活動者との協働による自主制作事業の推進」「鳥取県内外の人財を活用した事業の推進」の達成するために実施する。</p>						
開催時期	平成26年6月～平成27年2月(59回/小学校52校※合同開催1校含む、中学校3校、特別支援学校4校)						
会場	県内小中学校、特別支援学校						
参加費	無料						
実施状況	総体験者数	7,762名	実施ジャンル	吹奏楽8回、声楽1回、和太鼓8回、アフリカ民族音楽8回、ゴスペル5回、邦楽5回、ヒップホップダンス7回、オーケストラ1回、管楽器1回、演劇・人形劇9回、韓国民族音楽1回、ストリートダンス5回			
	講師研修 3/21	講師：児玉真(地域創造プロデューサー)、田村緑(ピアニスト) 受講者：12名※他館職員等含む、会場：とりぎん文化会館		講師意見 交換会 12/5	参加講師：11名 財団：3名		
事業費状況	予算額	収入	1,824,000円	支出	4,981,000円	収支比率	36.6%
	決算額	収入	1,759,730円	支出	3,743,041円	収支比率	47.0%
参加者アンケート (主なもの)	<p>【児童・生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回オペラに参加させてもらいました。とても興味がわいたので、機会があればぜひオペラを見てみたいと思いました。(声楽) ・今回のゴスペルを聞いて、すごく元気をもらいました。(ゴスペル) ・初めて韓国の楽器にふれたけど、本当にうれしかったし、たたいいってるとなぜか知らないけどコツをつかめ、楽しかったです。(韓国民族音楽) ・今回の和太鼓体験をとおしてみんなで息を合わせることの大切さを知りました。(和太鼓) <p>【先生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな歌声と表情豊かなトークに引き込まれていました。プログラムの構成も工夫されていて、楽しく聞くことができました。歌声を聞いたあと、全校で歌った時の子どもたちの歌声がいつもよりずっときれいでした。(声楽) ・今回の体験を活かして表現する楽しさを感じさせていただきました。子どもたちから素直に「楽しかった」「すごく良かった」という声がたくさん出ました。(ゴスペル) ・普段触れる機会のない生演奏に目を輝かせて聞き入っている姿を見て、本当に良い体験をさせることができたと感じました。実際に楽器に触れ、今後音楽を聞くときの感じ方が変わると思います。(吹奏楽) ・普段触れることの少ない和楽器に親しむことができ、子どもたちが日本の音楽への理解を深めることができた。(邦楽) 						
1次評価 (内部)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い芸術性に触れる機会としながらも、芸術学習の補完となるように体験活動を取り入れ、学校における文化・芸術学習としての位置づけとなっており、教育現場の要望は満たせていると考える。 ・講師意見交換会において、本事業開始当初からの講師(声楽、ピアノ、邦楽など)と近年の登録講師(ヒップホップ、和太鼓、吹奏楽など)との間に本事業に対する考え方の相違が明らかになった。このことはある意味将来的な方向性を検討する上で重要で、それに対する意見交換が行われたことには意味があると感じられた。 <p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の希望ジャンルの偏りについてその要因と、本事業が目指す方向を明確にし、今後の教育現場への情報提供をどのようなプロセスで提供していくかを再検討する必要がある。 ・12年間の実施結果を検証し、事業目的の達成度が外部に見えるような評価方法の検討が必要。 ・財団内の個人ではなく、組織としてのアーティストや教育現場へのマネジメント力の向上につなげられる事業の推進プロセスと体制づくりが必要。 						
2次評価 (財団アドバイザー委員)	<p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに文化芸術活動の鑑賞・体験機会を提供するという目的には大いに賛同する。 ・あまり触れることのできない伝統芸能など、見たり聞いたりすることにより興味を持ち、鑑賞したい、演奏したいということに繋がっていくと思われる。 <p>【事業プロセス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申し込みのあったすべての学校へ派遣でき、希望のプログラムが提供できたことは良かった。 ・学校独自では難しいジャンルも内容をきちんと把握した上での申し込みであり、うまく連携が図られていることが推測できた。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術を見たり聞いたりするだけでなく、体験することにより興味をもてる事業であったと指導を受ける子どもたちを見て感じ取れた。 <p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規参加団体(学校)が3%にとどまったことは残念。 ・この事業を受けた子どもたちの中から一人でも後継者が出ることを期待したい。 ・受ける子どもたちの希望が取り入れられないか、検討してほしい。 ・参加団体の固定化、1校1回の実施限定、分野の拡大など、課題を検討しながら事業は継続してもらいたい。 						
今後の対応、 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・12年間の評価、課題を整理し、事業の目的を財団と講師の間であらためて共有することが大切。 ・目的共有した上で、実施に関するプロセスや取り組み方の見直しを検討する。 ・外部に対する報告・評価をわかりやすく明瞭なもので発信していく手段を検討する。 ・事業実施のための組織的マネジメント力の向上を図る。 						